

能動的学習で意欲向上

文部科学省が14日公表した次期学習指導要領の改定案では、総合学習と各教科を関連付ける教科横断的なカリキュラムの取り組みも求められている。東京都江東区立八名川小学校では平成22年度から、こうした理念を反映した取り組みを導入している。その成果もあって、同校の全国学力学習状況調査（全国学力テスト）の結果は4年目から上昇したという。

（1面参照）

次期学習指導要領 改定案

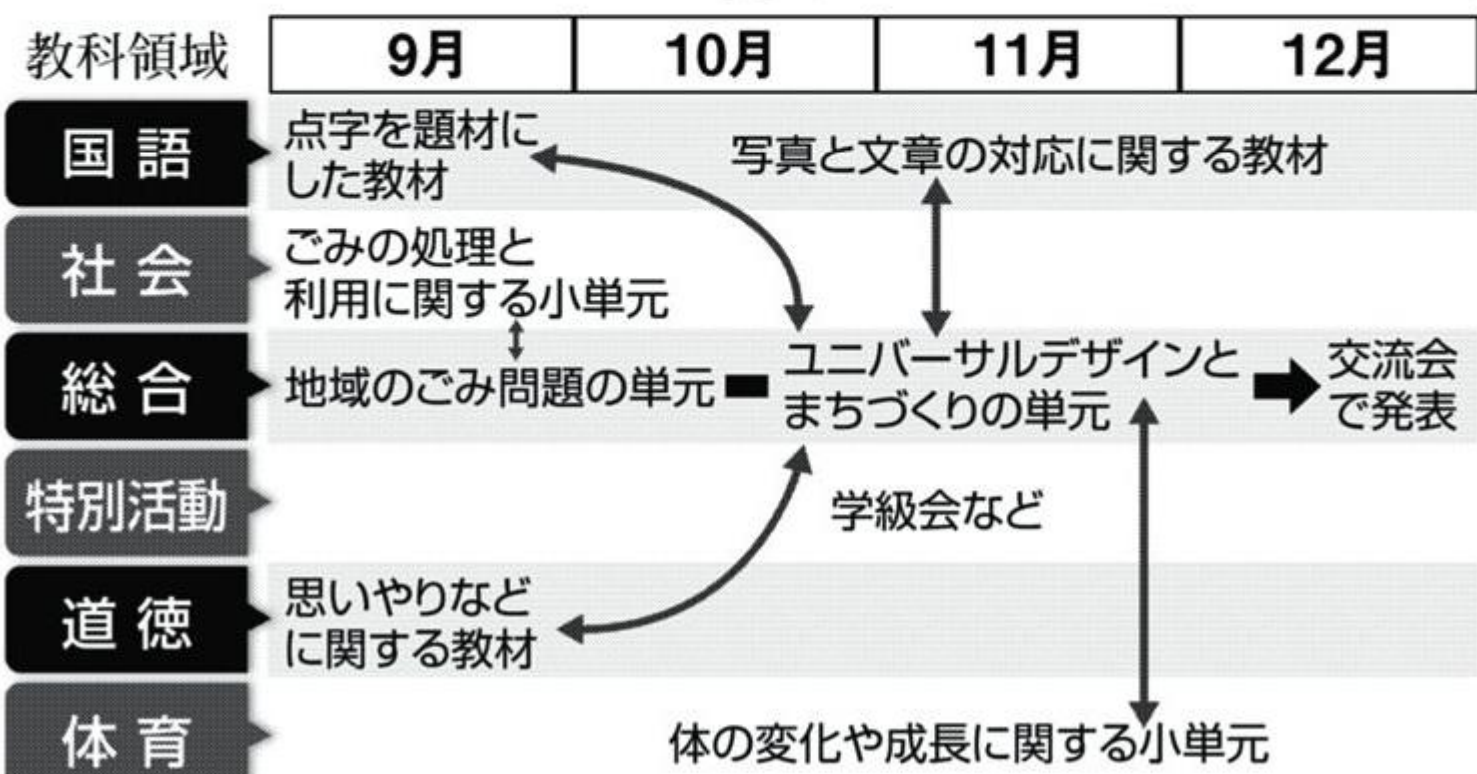
1月28日、同校で開かれた「八名川まつり」は児童が自分たちの意見を校内や保護者らに発表する場だ。この日のため、4年生は車いす体験や地域の人へのインタビュー、町の改善策の話し合いを重ねてきた。

学校周辺の調査では、交差点の青色信号が延長されていたり、音響用押しボタンを見つけたりした。総合学習のユニバーサルデザインとまちづくりの単元（学習内容のまとめ）は、国語と関連させ言語活動を充実させる狙いもある。国語



英語の指導力向上のため、研修を受ける小学校教員＝1月、大阪市

カリキュラム・マネジメントの例（東京都江東区立八名川小4年）



※このほか国語の新聞作りや算数の折れ線グラフと表などとも関連付けている

理念先取りの小学校 学力上昇

手島利夫校長は「単元の学習過程に沿ってゲストの話や体験活動などをコーディネートする力が教師にも求められる。総合学習が導入された約20年前は、その力を個々の教師に頼ったために深まらなかった」と話している。

者施設からゲストを招き高齢者の体の変化や介護について学ぶ機会などを設けた。

能動的に学ぶ手法も取り入れている。対話型授業で児童が当事者意識を持てる仕掛けに加え、校内研究で「自分と対話する沈黙の時間」「正答のない学びの設定」なども検証。当初3年伸び悩んだ全国学力テストの結果は4年目から伸びた。特に知識の活用力をみるB問題が著しく、「国語B」「算数B」が7年間でそれぞれ約15%と約18%上昇した。